

# 平成30年度 各種調査結果を活用した学力保障の取組事例

事務所名	盛岡	学校名	盛岡市立山岸小学校	T E L	019-623-2275
------	----	-----	-----------	-------	--------------

## 諸調査結果の活用と校内研究をタイアップした学力向上の取組

### 【今年度の目標】

平成29年度の諸調査の結果分析から明らかになった本校の課題を改善するために、以下の目標を設定した。

- 1 各教科における正答率50%未満の層の減少（40%未満は0）、80%以上の層の増加
- 2 各教科における「説明する」記述問題の正答率を3ポイント以上上昇させる。
- 3 児童質問紙「自分にはよいところがある」の1番の回答（積極的肯定）を増加させる。4番の回答（否定回答）を減少させる。

### 【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- 1 組織的に学力向上に取り組む校内体制の構築と実践
- 2 各種調査を活用した学力保障の取組
- 3 学力向上の取組と校内研究をタイアップした授業改善の実践

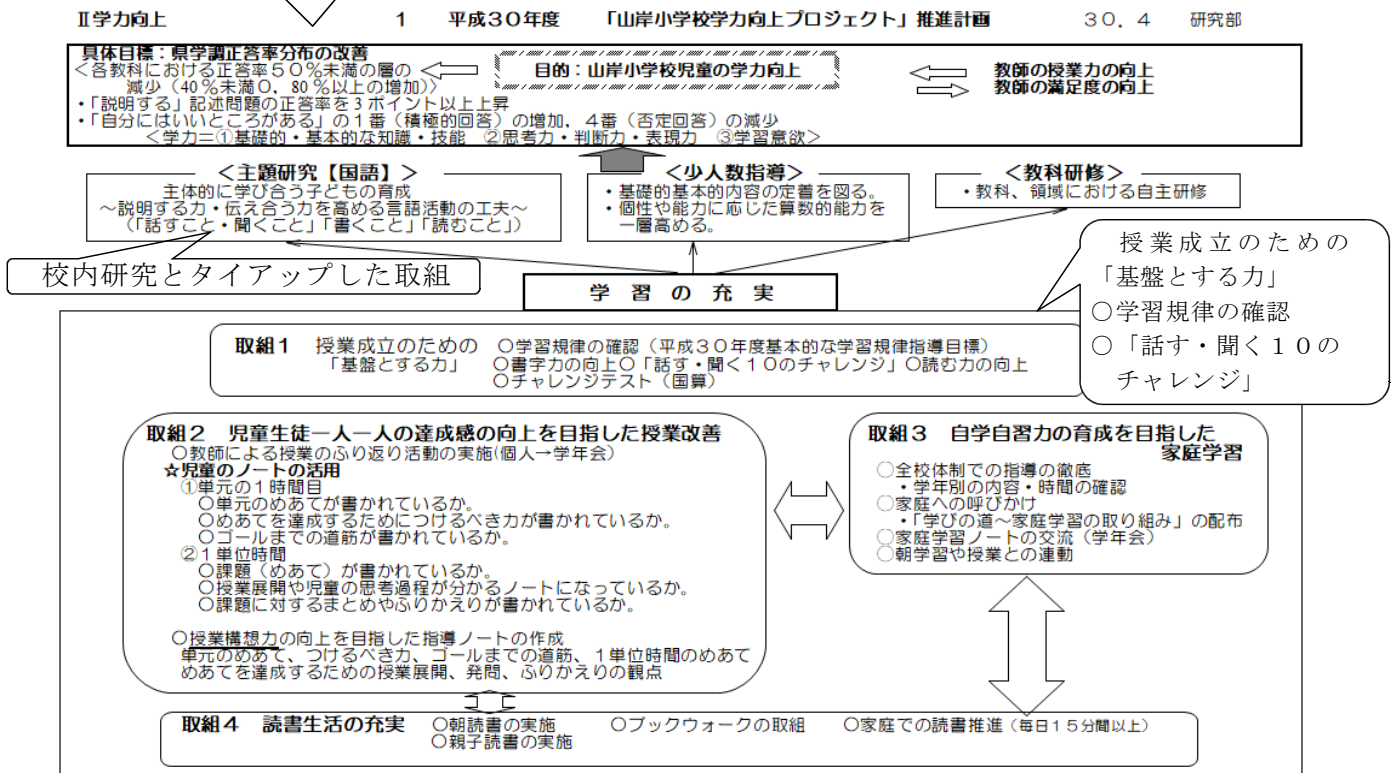
### 【具体的な取組】

#### 1 組織的に学力向上に取り組む校内体制の構築と実践

##### (1) 「山岸小学校学力向上プロジェクト」推進計画の共通理解と実践

昨年度までと同様に学力向上の取組を組織的に推進するため、「山岸小学校学力向上プロジェクト」推進計画【資料1】を作成し、4月第1回の全体研究会において全職員で共通理解し、学力向上に取り組んだ。「山岸小学校学力向上プロジェクト」推進計画には、『『確かな学び、豊かな学び』実現プラン』に記載した平成30年度 of 具体目標の達成に向けて、学習の充実のための取組1～取組4、主題研究【国語】、少人数指導、教科研修の各取組を構造的に示した。

### 平成30年度 of 具体目標



(2) 授業成立のための「基盤とする力」の育成

↳【資料1：「山岸小学校学力向上プロジェクト」推進計画 取組1】

「平成30年度基本的な学習規律指導目標」【資料2】を学年別に一覧表に明示し、校内で統一して取り組んでいる。4月12日の全体研究会、更に4月20日には学習規律提案授業を行い全員で確認した。

平成30年度基本的な学習規律指導目標							盛岡市立山岸小学校
nenn		低学年		中学年		高学年	
準備	心	○前の時間の学習が終わったら、次の学習の準備をしてから、トイレなどに行く。		○始業前に席につき、復習や予習をしてして待つ。(例…音読をして待つ・前時の勉強について話せるようにしておく・前時の学習について問題を出し合う・本時の学習内容を確認する)			
	用具	①鉛筆(B・2B)②消しゴム③赤ペン④青ペン⑤定規⑥教科書⑦ノート⑧下敷き⑨日にち⑩やる気(音読・復習・予習)10点セット					授業の準備 10点セット
		*教科書(左側)・ノート・下敷き(右側)・…左利きの場合は反対に置く。鉛筆(B)・消しゴム・赤ペン・青ペン・ミニ定規(机の奥にそろえて)					
*ペンは1年生2学期から、ミニ定規は2年生から使用する。(学年でそろえて購入)					○国語辞典を絵本袋に入れ、いつでも使うことができるようにする。(付箋)		
ノート	国	36mm(6字×4行)→26mm(8字×6行)→22mm(10字×7行)→18mm(12字×8行)	18mm(12字×8行)→15mm(15字×10行)	15mm(15字×10行)	12mm(18字×12行)→12mm縦罫×12行	10mm縦罫×15行	9mm縦罫×17行
	算	22mm(10字×6行)→15mm(13字×7行)	12mm(12字×17行)	10mm(15字×22行)	10mm(15字×22行)	10mm(15字×22行)	8mm(19字×28行)
	家庭学習				10mmマス		
読むこと	正しく、はっきり、点や丸まで一息で読むことができる。		「さよなら音読」に取り組み、声を合わせて音読することができる。				
			授業で個々の頑張りを認め、自信をもたせる。				
書くこと	書きに関する事項	○鉛筆を正しく持つことができる。		①人差し指は、鉛筆の縦のラインに沿わせる。②鉛筆の下側を開けるように持つ。③小指を軽く紙につける。		①足はべったん、②せなかはびん、③おなかとせなかにぐうひとつ、④左手置いてさあ書こう。	
		○正しい姿勢で書くことができる。		正しい筆順の指導			
		○筆順に従って正しく書く。					
書くこと	書字力	○点画や長短、接し方や交わり方等に注意して書く。		○文字の組み立て方、大きさや配列に注意して形を整えて書く。		○文字の組み立て方、大きさや配列等を理解し、読みやすく書く。	
		○学年に応じた速さで丁寧に書くことができる。(書字カテスト4月・11月、1年生は6月・11月)教師も速さを意識して板書する。					
		15字/1分間(ひらがな)	20字/1分間(漢字も含む)	25字/1分間	30字/1分間	35字/1分間	40字/1分間
表記に関する事項	○長音、拗音、促音、撥音等の表記ができ、助詞「は」「へ」「を」を文の中で正しく使う。		○送りかなに注意し、活用についての意識をもつ。		○送りかなや仮名使いに注意して書く。		
	○句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使う。		○句読点を適切に打つ。				
			○段落のはじめ、会話文は改行して書く。				
授業前後の挨拶	○チャイムまたは「始めましょう」の合図で起立する。 ・日直「これから国語の学習を始めます。」全員「はい。」礼をして着席する。			○チャイムまたは「終わりましょう」の合図で起立する。 ・日直「これで国語の学習を終わります。」全員「はい。」礼をして着席する。			
ハンドサイン	パー		チョキ		グー		一本指
	発表・説明	同じ考え	つけたし		他の考え		質問

ハンドサイン

【資料2：「平成30年度基本的な学習規律指導目標」】

2 各種調査を活用した学力保障の取組

(1) 各種調査の結果から、落ち込みがあった重点単元の共有と指導改善

- ・平成29年度「岩手県学習定着度状況調査」において、本校児童の正答率が落ち込んでいる、または県平均正答率より低かった問題を洗い出し、昨年度指導書に付箋を付けた単元を4月に確認したことにより、意識して指導を行うことができた。
- ・平成29年度標準学力カテストの結果をもとに、今年度の担任・学年で要支援児童の共通理解を4月に行った。そしてどのような支援を行うかを考えた各学年の取組を一覧にして示し、日々の授業で意識して指導した。

(2) 各種諸調査の結果を受けた補充指導

- 4月にNRT学力検査を実施した4年生は、通過率70%未満の問題を抽出し、補充指導を行い、9月第3週に同一問題に取り組み、通過率の伸びを確認した。また、評定1・2段階、アンダーアチーバーの子どもを抽出し、2学期以降の指導においてどのような改善をしていくか対策を立て、指導を行った。また、NRT学力検査の結果については全職員で共通理解し、通過率の低い問題について該当学年で意識して指導を行った。
- 全国学調を実施した6年生は、平均正答率70%未満及び全国比5ポイント差、大幅に正答率が低い問題を抽出し、問題について解説し、10月第1週に同一問題に取り組み、通過率の伸びを確認した。また、全国学調の結果については全職員で共通理解し、通過率の低い問題について実際に解いてみた。そのことにより、子どもたちにどのような力が求められているのか、どのような力をつけていかなければならないのか、そのためにはどのような指導改善が必要かを考えることができた。

〈例〉算数では、図や式、言葉を相互に関連付けて説明する活動を設定する。また、他者の考えや説明の仕方を理解して終わりせず、もう一度問題に戻り、説明し合う学習に取り組ませる。その際、考え方や説明の仕方で大切な点を振り返り確認し直す。

3 学力向上の取組と校内研究をタイアップした授業改善の実践

(1) 校内研究の重点と授業改善の実際

「H30. 学校教育指導指針」では、「いわての授業づくり3つの視点」により「確かな学び、豊かな学び」を実現し、児童一人一人の学力を保障することで、豊かな人間性の育成を図ることを目指している。その考え方を校内研究に取り入れると共に、国語科を中心に以下の4点を重点として取り組んできた。

- ① 付けたい力及びゴールと道筋を明らかにした単元計画
- ② 自分の考えを表現する言語活動「説明する」「伝え合う」を組み込んだ指導の工夫
- ③ 授業のユニバーサル化の推進
- ④ 他教科の授業における説明する場面を取り入れた授業実践

実践事例は、第5学年国語「くらしを見つめて意見文を書こう」である。授業に①～③の重点を位置付け、授業研究会で協議してきた。

段階	学習活動 (主発問○)	学習内容 (◇)	指導上の留意点
つかむ 3分	1 学習課題を確認する。		・ 本時は選んだ資料から読み取ったことが、自分の考えを裏付ける資料として妥当かどうか考えることを確認する。
	説得力のある構成表になっているか見直そう。		
ふかめる 37分	2 学習課題を解決する。 (1) モデル構成表をもとに、資料を説明するための観点を確認する。 ○ 資料の読み取り方を確かめましょう。	◇ モデル構成表をもとに、資料の説明の仕方を確かめること。  ・ 何を表す資料なのか。 ・ 資料が示すものはなにか。 ・ 注目した数字や言葉はどれか。 ・ 資料から考えられること。	・ モデル構成表から資料の読み取りのポイントを確認する。  ③ 授業のユニバーサル化 (視覚化・共有化・焦点化)
	(2) 資料から読み取ったことが考えの裏付けとなっているかグループで話し合い、確かめる。 ○ 資料の読み取りが自分の考えに説得力をもたせるものとなっているか、もっとよ	◇ ポイントを使いながら、資料を説明し妥当性について話し合うこと。  ◇ 資料から読み取ったことが、自分の考えの根拠として妥当かどうか	④ 交流のモデルを教師が示し、交流の仕方をイメージできるようにする。  ・ 自分の考えを裏付けるために、資料から分かることと自分の考えがどのように結

	くするにはどうしたらよい  検討すること。 か交流しましょう。	② 思考場面や交流場面を意図的に設定し児童に「説明する」「伝え合う」言語活動を多く体験させる。 ・ペアまたはグループで ・書き終わった子どもから後ろに行き交流する	び付いているのか説明することが大切であることを確認する。				
	(3) 考えと資料を照らし合わせて、構成表の見直しや書き足しをする。	◇話し合いで得たアドバイスを使得、必要な事柄を構成表に書き足したり見直したりすること。					
	<table border="1"> <tr> <th>おおむね満足 (B)</th> <th>努力を要する子への支援</th> </tr> <tr> <td>資料から読み取ったことが、自分の考えに説得力をもたせるものとなっているか構成表を見直し、必要に応じて書き加えている。</td> <td>資料を読み取るポイントから、自分の資料を見つめ直し、自分の考えと合っているか判断できるようにする。</td> </tr> </table>		おおむね満足 (B)	努力を要する子への支援	資料から読み取ったことが、自分の考えに説得力をもたせるものとなっているか構成表を見直し、必要に応じて書き加えている。	資料を読み取るポイントから、自分の資料を見つめ直し、自分の考えと合っているか判断できるようにする。	
おおむね満足 (B)	努力を要する子への支援						
資料から読み取ったことが、自分の考えに説得力をもたせるものとなっているか構成表を見直し、必要に応じて書き加えている。	資料を読み取るポイントから、自分の資料を見つめ直し、自分の考えと合っているか判断できるようにする。						
	(4) 見直しや書き足した構成表をグループで確かめ合い、アドバイスしてもらったことの価値付けをする。	◇見直しや書き足した構成表をグループで紹介し、アドバイスしてもらってよくなったことを伝える。	・グループで見直しや書き足した構成表を紹介し、アドバイスしたことを価値付ける。				
ま と め る 5 分	3 本時の学習を振り返る。 4 次時の学習を確認する。	◇今日の学習を振り返り、交流した感想をまとめること。	〈振り返り〉 ・読み取ったことと自分の考えが合っているか ・説得力が高まったか				

「④他教科の授業における説明する場面を取り入れた授業実践」については、主題研究の国語だけでなく、他の教科等の全体研究授業を通して「説明する力」の育成を図るため、全体授業研究会として、道徳、外国語を実施した。盛岡市教育研究会ブロック研修会の道徳、外国語、算数の授業も含め全員が国語以外の教科の実践も行い、実践記録を作成し交流する。

## (2) 自己肯定感がもてる学級経営の充実

授業研究会では、学級経営についても話題にし、自己肯定感の高まりを学習内容の定着に結び付ける授業づくりについて互いに学び合う機会を設けている。また8月には、SL講座「学級経営・生徒指導講座～よりよい学級集団・学級づくりを目指して～」を校内研修として行い、その際作成した「学級経営戦略マップ」を月に1度学年会で話題にし、交流とチェック、必要に応じて修正を行いながら活用し、児童に自己決定の場と自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成するような学級経営に努めてきた。学期末には学級経営案の反省と共に振り返りを行い、次学期に生かしていく。

〈岩手県学習定着度状況調査における今年度の目標に対しての結果〉

・各教科における正答率50%未満の状況(数字は人数, ( )内は%小数第2位四捨五入)

	国語	社会	算数	理科
今年度5年生〈77人〉	16 (20. 8)	8 (10. 4)	27 (35. 1)	11 (14. 3)
-----	-----	-----	-----	-----
50%未満	3/16 (3. 9)	3/8 (3. 9)	14/27 (18. 2)	4/11 (5. 2)
40%未満	-----	-----	-----	-----
昨年度5年生〈103人〉	11 (10. 7)	9 (8. 7)	16 (15. 5)	9 (8. 7)
-----	-----	-----	-----	-----
50%未満	7/11 (6. 8)	3/9 (2. 9)	12/16 (11. 7)	4/9 (3. 9)
40%未満	-----	-----	-----	-----

○正答率で比較すると、国語の40%未満が2. 9ポイント減少した。

・各教科における正答率80%以上の状況（数字は人数，（ ）内は%小数第2位四捨五入）

	国語	社会	算数	理科
今年度5年生〈77人〉	17 (22.1)	19 (24.7)	6 (7.8)	11 (14.3)
昨年度5年生〈103人〉	27 (26.2)	39 (37.9)	26 (25.2)	43 (41.7)

○4教科とも減少しているが、国語は4.1ポイントと、他教科に比べ減少率が低い。

・「説明する」記述問題の正答率

	国語	社会	算数	理科
今年度5年生〈77人〉	63.6	68.8	1.3	59.7
今年度岩手県	52.5	61.1	38.4	59.2
昨年度5年生〈103人〉	19.4	52.4	49.5	39.8

○同一問題ではないが、同じ領域や同じねらいの問題で比較した。国語、社会、理科において3ポイント以上上昇した。

・質問紙「自分にはよいところがある」の回答率

	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない
今年度5年生〈77人〉	52	32	10	5
今年度岩手県	33	45	14	7
昨年度5年生〈108人〉	46	36	15	4

○1番の「ある」（積極的肯定）の回答が昨年度に比べ6ポイント上昇し、県よりも19ポイント上回っている。また、肯定的回答と合わせると昨年度より6ポイント上昇した。一方で4番の「ない」（否定回答）が昨年度に比べ1ポイント増加した。

・質問紙「先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の回答率

	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない
今年度5年生〈77人〉	47	35	12	6
今年度岩手県	36	44	13	5
昨年度5年生〈108人〉	39	38	20	3

○1番の「ある」（積極的肯定）の回答が昨年度に比べ8ポイント上昇し、県よりも11ポイント上回っている。また、肯定的回答と合わせると昨年度より5ポイント上昇した。

## 【成果】

○国語の正答率40%未満が3ポイント減少した。

⇒ NRT学力検査通過率70%未満の問題を抽出し補充指導を行ったこと、昨年度の標準学力テストの結果をもとに今年度の担任・学年で要支援児童の共通理解とどのような支援を行うかを考えて実施してきたことで、底上げを図ることができた。

○「説明する」記述問題の正答率が同一問題ではないが、同じ領域の問題で比較したところ、国語、社会、理科において3ポイント以上上昇した。

⇒ 校内研究において、自分の考えを表現する言語活動「説明する」「伝え合う」を組み込んだ指導の工夫を、主題研究の国語だけでなく他の教科等の全体研究授業も通して学び合い、日常的に意識して実践することにより成果を上げることができた。質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の回答が昨年度に比べ3ポイント上昇したことから、児童自身も「説明する」「伝え合う」ことの意義を実感することができた。

○質問紙「自分にはよいところがある」の1番の「ある」（積極的肯定）の回答が昨年度に比べ6ポイント上昇し、県比で19ポイント上回っている。また、肯定的回答と合わせると昨年度より6ポイント上昇した。

⇒ 授業研究会で学級経営についても話題にし、自己肯定感の高まりを学習内容の定着に結び付ける授業づくりについて互いに学び合ったこと、「学級経営・生徒指導講座～よりよい学級集団・学級づくりを目指して～」の研修会の際に作成した「学級経営戦略マップ」を月に1度学年会で話題にし、交流とチェック、必要に応じて修正を行いながら活用し、児童に自己決定の場と自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成するような学級経営に努めてきたことが、成果として表れたと思われる。

○質問紙「先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の1番の「ある」（積極的肯定）の回答が昨年度に比べ8ポイント上昇し、県よりも11ポイント上回っている。また、肯定的回答と合わせると昨年度より5ポイント上昇した。

⇒ 学級経営の充実に努めることで、自己存在感を与えることができた。

組織的に学力向上に取り組む校内体制の構築と実践、各種調査を活用した学力保障の取組、学力向上の取組と校内研究をタイアップした授業改善の実践により、成果を上げることができた。今後は、児童に自己決定の場と自己存在感を与え共感的な人間関係を育成するような学級経営に努めることを継続しながら、各教科における正答率を上昇させる手立てを講じていきたい。